



背景

徳島県南部、高知県西南部、愛媛県南部などのリアス式海岸に見られるV字型の入江では、他の地域よりも地震後の津波が大きくなることが想定されます。このことから、「地震後は早く、高い所に避難すること」が導き出されます。このような経験や言い伝えから学んだことを後世の人に伝えることは重要なことです。この話は、阿南市見能林^{みのばやし}に嫁いだ女性が義父から教えられた地震後の心構えを大切にしたいために、津波から家族みんなの身を守ることができたという体験談です。

アクセス

船の打ちあがった付近 (打樋川)

- JR見能林駅より南南西へ直線距離約1.5km
- 阿南市見能林町
- 緯度経度 北緯33度53分20秒, 東経134度39分50秒



昭和二年(一九四六)一月二日未明の南海地震の時のことです。グラッ！グラッ！突然襲った地震に、私は今まで経験したことのない大きな衝撃を受け、ただならぬ危険を身感じました。津波が来る、必ず津波がやって来ると思いました。私は子どもたちを素早く戸外へ連れ出し、モチの木に皆でかかえつきました。早くどこか高い所へ避難しなければと思い、家族に身仕度をさせ、塩・味噌・米など非常食品を持って、近所の高いお家に避難させてもらいました。

その直後、暗闇の中に、津波の轟音^{ごうおん}が聞こえてきました。時間がたち、夜も明け、私たちが家へ帰って来たところ、家、家具、収穫したばかりのお米など、ありとあらゆる物すべてが泥まみれとなり、眼も当てられぬ有様でした。また、家の前の道路には、二〇〇トン級の船が打ち上がっていました。

時間が経つにしたがつて、お隣の人も、避難先から帰って来て、無事であったことを共に喜び合いました。こうした未曾有^{みそろう}の出来事の中に、一人の怪我人^{けがじん}も出なかったことは、今は亡き父の日頃の教訓のお蔭なのです。

私がこの家へ嫁いで来た時、父からくれぐれも次のことを注意されました。この土地は前が海であり、ましてV字型の入江であるので、もし地震があった時は、必ず津波が来ると思い、高い所へ避難すること、他の地域より潮位が高くなること、また戸外へ出たら、木の根元に避難することです。これはこの地方は沼地であるため地盤が軟弱なので地割れの心配があるそうで、この注意はお隣の人たちにもいつも言っていました。こうした年長者のちょっとした注意や言い伝えは、若い世代へ言い残しておきたいものです。